

BUSINESS REPORT 2011

平成23年3月期 期末報告書

[平成22年4月1日～平成23年3月31日]

Challenge & Growth

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては日頃、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。さて、ここに平成23年3月期 期末報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期の食品業界におきましては、厳しい雇用・所得環境の影響により、国内消費は伸び悩み、低価格志向による価格競争が一段と激しくなるなど、厳しい収益環境が続いております。

このような環境下、調味料については、機能性を有する調味料を提案するなどして、当社ブランド製品の拡販に注力しました。機能性素材については、引き続きN-アセチルグルコサミンやアンセリンなどの素材PRを推進し、各素材の認知度向上を図りました。水産物においては、問屋部門の契約船増加に伴い、買付取引を活発に行いました。さらには、海外子会社の上海事務所を設立して、中国を中心とした海外展開の強化を推し進めました。

この結果、売上高は12期連続で過去最高の223億12百万円(前期比2.0%増)となりましたが、利益面においては、営業利益10億76百万円(同36.8%減)、経常利益11億32百万円(同37.7%減)となりました。当期純利益につきましては、投資有価証券の減損処理に伴う特別損失の計上などにより、2億22百万円(同80.0%減)となりました。

配当金につきましては、当期においては減益となりましたが、株主の皆様の日頃のご支援に報いるため、当期の期末配当金は1株につき12円とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、中間配当と合わせて1株

代表取締役社長

山本 和広



あたり22円となります。

当社は少子高齢化が進む国内の市場環境や経済のグローバル化に対応するため、当期から3カ年中期経営計画「Challenge & Growth」をスタートさせ、機能食品の強化、海外市場の積極展開、国内市場の安定確保に取り組んでいるところです。次期もこれを着実に推し進めながら、当社の技術力を生かした新製品の投入や新規分野の開拓により、当社のマーケットシェア拡大を図ります。また、高採算商品の拡販、生産効率の改善、経費削減、子会社の採算性確保に注力することにより、強固な利益体質を構築し、株主の皆様のご期待に応えていく所存です。

今後とも株主の皆様のご理解を賜り、末長いご支援をいただきますようお願い申し上げます。

天然調味料の製造

調味料の受託加工

調味料

売上高構成比
35.3%

売上高 **78億 72百万円** (前期比 **-1.0%**)

セグメント利益 **7億 86百万円** (前期比 **-12.5%**)

国内消費の伸び悩みから需要は頭打ちの状況にあります。液体調味料は需要の低下が底を打ちつつあるものの、粉体調味料は受注減により売上は減少しました。

天然調味料

カツオエキス 昆布エキス ホタテエキス
カニエキス オイスターエキス etc.

機能性食品素材の製造

医療栄養食(流動食の受託製造)

健康食品の通信販売

機能食品の受託加工

機能食品

売上高構成比
37.3%

売上高 **83億 12百万円** (前期比 **-10.9%**)

セグメント利益 **9億 12百万円** (前期比 **-34.0%**)

前期好調に推移した連続真空乾燥機を使った受託加工製品が、一部取引先の在庫調整の影響を大きく受け受注が低迷し、収益を圧迫しました。さらに機能性素材は、消費者の低価格志向による販売不振、競争激化による単価の下落などで売上・利益面ともに減少しました。

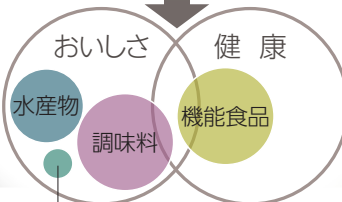
機能性素材

N-アセチルグルコサミン アンセリン マリンコラーゲン
フコイダン コンドロイチン硫酸 etc.

天然素材のフィールドの中で
“おいしさと健康”を追求します

天然原料

独自技術



水産物の加工

水産物の問屋業 倉庫業

水産物

売上高構成比
19.3%

売上高 **43億 11百万円** (前期比 **+64.4%**)

セグメント利益 **88百万円** (前期比 **-4.2%**)

問屋部門の仲介買付が好調に推移したため売上高に大きく寄与したものの、付加価値が低く、利益の拡大には結びつきませんでした。

香辛料の製造 その他商品

その他

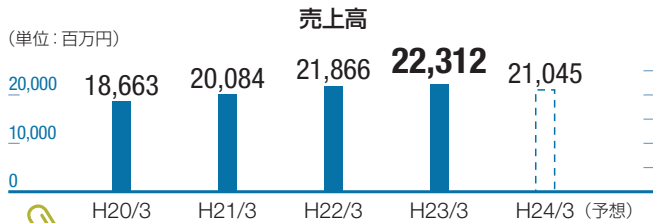
売上高構成比
8.1%

売上高 **18億 15百万円** (前期比 **-7.5%**)

セグメント利益 **70百万円** (前期比 **-44.1%**)

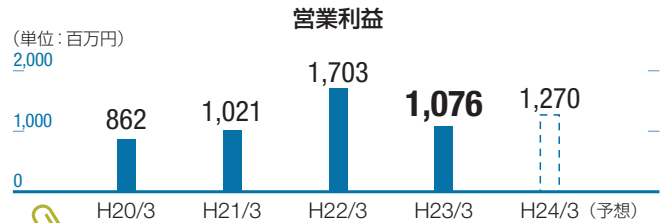
各種ワサビ類他香辛料の製造販売、その他商品の販売は、価格競争が一層激しくなっています。

● 連結財務ハイライト



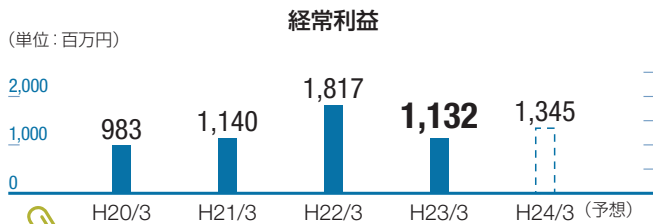
売上高の POINT

主力製品である調味料、機能食品が猛暑や価格競争激化の影響を受けたものの、水産物の問屋部門売上が好調に推移したことから増収となりました。



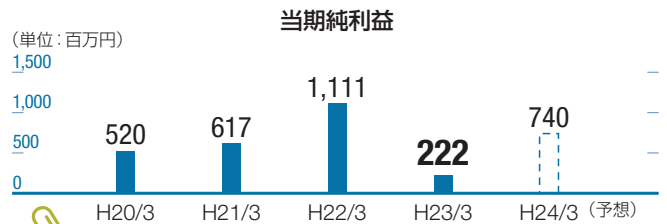
営業利益の POINT

機能食品の売上減少、価格競争による販売価格の低下などにより減益となりました。



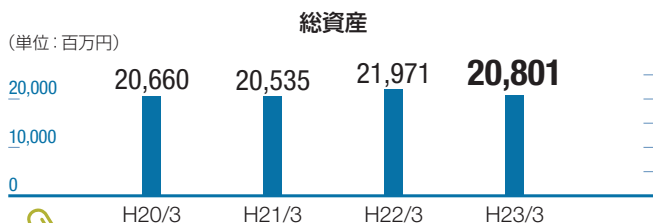
経常利益の POINT

営業利益の減少により、減益となりました。



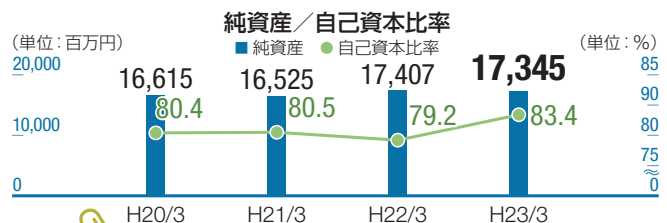
当期純利益の POINT

投資有価証券の減損処理に伴う特別損失の計上により減益となりました。



総資産の POINT

現金及び預金が減少したことなどにより、流動資産は4億28百万円減少しました。建設仮勘定の減少、投資有価証券の減少などにより固定資産は7億41百万円減少しました。



純資産・自己資本比率の POINT

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加に対し、利益剰余金の減少などにより、61百万円減少しました。自己資本比率は83.4%となり4.2ポイント増加しました。

● 連結財務データ

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	平成22年3月期 (平成22年3月31日現在)	平成23年3月期 (平成23年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	11,774	11,346
固定資産	10,196	9,455
有形固定資産	7,214	6,691
無形固定資産	48	228
投資その他の資産	2,933	2,535
資産合計	21,971	20,801
(負債の部)		
流動負債	3,803	2,790
固定負債	760	665
負債合計	4,563	3,455
(純資産の部)		
株主資本	17,540	17,453
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	10,514	10,427
自己株式	△ 5	△ 5
その他の包括利益累計額	△ 133	△ 107
その他有価証券評価差額金	△ 130	△ 51
為替換算調整勘定	△ 2	△ 56
純資産合計	17,407	17,345
負債・純資産合計	21,971	20,801

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	平成22年3月期 (平成22年4月1日から 平成22年3月31日まで)	平成23年3月期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	21,866	22,312
売上原価	16,726	17,625
売上総利益	5,140	4,686
販売費及び一般管理費	3,436	3,610
営業利益	1,703	1,076
営業外収益	142	102
営業外費用	29	46
経常利益	1,817	1,132
特別利益	0	1
特別損失	21	541
税金等調整前当期純利益	1,795	592
法人税、住民税及び事業税	729	221
法人税等調整額	△ 44	149
少数株主損益調整前当期純利益	—	222
当期純利益	1,111	222

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	平成22年3月期 (平成22年4月1日から 平成22年3月31日まで)	平成23年3月期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,183	699
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 712	△ 519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 541	△ 603
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 11
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	930	△ 435
現金及び現金同等物の期首残高	2,017	2,948
現金及び現金同等物の期末残高	2,948	2,513

中期経営計画

Challenge & Growth

当社グループは2010年以降の「当社グループビジョン」および中期経営計画「Challenge & Growth」をスタートしています。当計画の初年度にあたる2010年度の進捗状況を報告します。今後も引き続き、課題の達成に向けてグループ一丸となって当計画を推進してまいります。

2010年以降の当社グループビジョン

1. 少子高齢化が進む環境下、機能食品事業を強化します。
2. 独自の技術・製品開発により、国内市場の安定確保と海外事業の積極展開を図ります。

中期経営計画「Challenge & Growth」の基本方針

「Challenge & Growth」では、前中期経営計画「Harvest Plan」で掲げた重点課題を継承し、以下の5項目を推進致します。

1. 社会・顧客対応の充実
2. 優位性の創造と育成
3. 組織力の強化と連携
4. 人材育成の強化
5. 増益体質の強化

中期経営計画「Challenge & Growth」の重点施策

1 N-アセチルグルコサミン(NAG)の拡販

当社の機能食品事業を牽引する機能性素材NAGは、本格販売以来10年間、国内トップシェアを維持する注力製品です。原料および中間製品の供給体制が確立したことで、国内外への更なる拡販を実施します。また、子会社のUMIウェルネス(株)の主力製品としても、広告宣伝を強化して市場の拡大を図ります。



2 海外市場への積極展開

中国における調味料・機能食品素材の展開に実績が出始め、これを確実に推進するほか、同国子会社の大連YSK製品の同国内での販路拡大と東南アジア市場(タイ、ベトナム)への市場開拓を図るべく、海外営業部を増員し、積極的・行動的な展開を推進致しました。当年度においては、大きな進展は見られなかったものの、引き続き、海外販売ルート of 拡大に取り組む所存です。

3 CVD2号機の安定稼働と販売強化

当社の優位性の一つでもあるCVD(連続真空乾燥装置)製品は、その品質特性に対する幅広いニーズにより需要が拡大していることから、2010年3月に2号機を導入致しました。当年度においては、機械設備の調整による本格稼働の遅れや一部取引先のCVD製品の受注減があったものの、次年度以降は新規製品の市場投入および製品特性を生かした受注の獲得に努めてまいります。



4 YSKブランドの育成

主力事業である調味料事業において、単なる調味素材ではなく、調理機能を有する新製品の開発に成果が出てきました。また、機能性素材の新たな分野として、化粧品・環境ビジネスへの展開の模索・実績化にも注力しています。次年度以降もこうした技術・製品の情報発信と売上拡大によって、YSKブランドの強化・育成を図ってまいります。

会社概要 (平成23年3月31日現在)

商号	焼津水産化学工業株式会社
事業内容	天然調味料および機能食品の製造販売
資本金	36億1,764万円
創業年月日	昭和34年5月15日
取引銀行	静岡銀行本店営業部/りそな銀行東京営業部
社員	285名



焼津水産化学工業株式会社
本社外観

役員	代表取締役社長	山本 和広
	常務取締役	齋藤 滋
	常務取締役	石川 眞理子
	取締役	高橋 英之
	取締役	松田 秀喜
	取締役	又平 芳春
	取締役	松末 隆志
	常勤監査役	石黒 厚士
	常勤監査役	澤本 猪三雄
	監査役	石野 達佳
	監査役	松永 淳



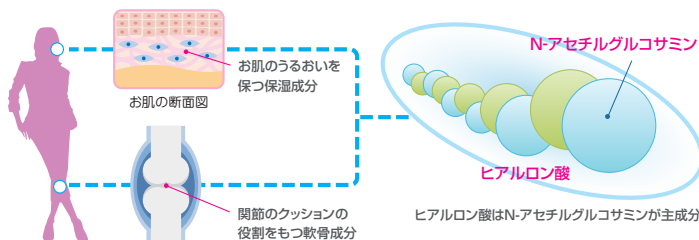
元気とうるおいを体内からサポート

N-アセチルグルコサミンで ヘルシー&ビューティライフを!

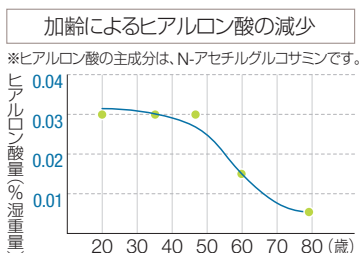
N-アセチルグルコサミンは加齢によって引き起こされる、ひざの痛みや肌の老化を防止する効果が期待されています。当社は世界で初めて酵素分解法によるN-アセチルグルコサミンの量産化に成功して数々の特許を取得し、さまざまな試験を実施しています。

元気とうるおいを体内からサポート

N-アセチルグルコサミンは、関節やお肌にあるヒアルロン酸の「もと」となる成分です。ヒアルロン酸はお肌のうるおいを保ち、関節ではクッションのように働き各部を保護する役割を担っています。

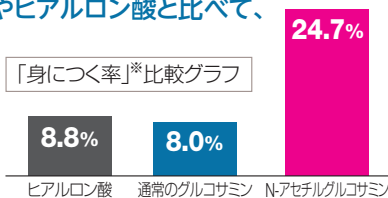


ヒアルロン酸は、 年齢とともに 減少してしまいます



N-アセチルグルコサミンは、 通常のグルコサミンやヒアルロン酸と比べて、 「身につく力」が 約3倍!

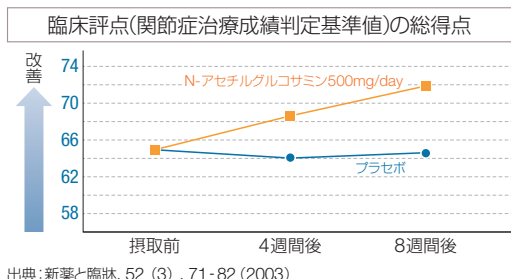
※「身につく率」とは、摂取したグルコサミンが膝関節軟骨やお肌などの体内組織に選ばれ、利用される割合のことをいいます。



N-アセチルグルコサミン摂取により関節痛や乾燥肌を改善する効果が見られました



出典: Aesthetic Dermatol, 18, 91-99 (2008)



さらに詳しい情報はこちら! URL <http://www.yskf.jp/acetylglucosamine/> 元気とうるおいを体内からサポート

事業所 静岡本部 〒422-8067
静岡県静岡市
駿河区南町11番1号
静岡・中京銀静岡駅南ビル6F
TEL.054-202-6030
FAX.054-202-6031

焼津本社

営業所 東京営業所
大阪営業所
名古屋営業所
静岡営業所
九州営業所

工場 静岡県内3工場
(焼津・団地工場 榛原工場 大東工場)

連結子会社

- オーケー食品株式会社
資本金 50百万円 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 香辛料・顆粒調味料の製造・販売
- マルミフーズ株式会社
資本金 100百万円 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 水産物の加工・販売
- 大連味思開生物技術有限公司
資本金 505百万円 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 調味料等の製造・販売
- UMIウェルネス株式会社
資本金 50百万円 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 健康食品の通信販売

株式の状況・株主メモ

株式の状況(平成23年3月31日現在)

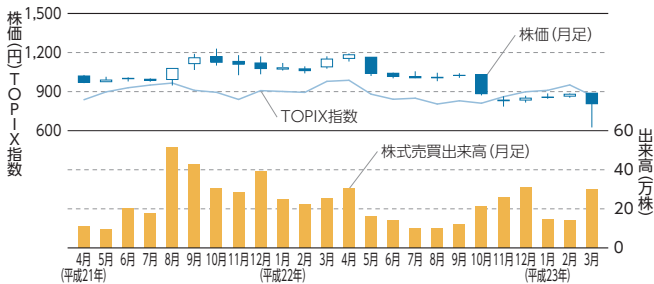
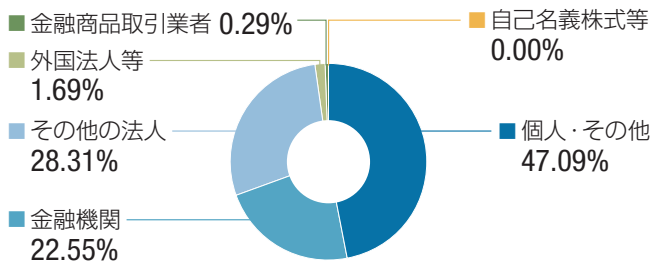
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	14,056,198株(自己株式5,339株を含む)
株主数	10,646名

大株主(上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
宝ホールディングス株式会社	1,193	8.50
日油株式会社	902	6.43
株式会社静岡銀行	678	4.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	566	4.03
鈴木ミツエ	530	3.77
株式会社りそな銀行	478	3.41
松本圭一郎	323	2.30
焼津信用金庫	321	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	254	1.81
明王物産株式会社	232	1.65

(注)持株比率は自己株を控除して計算しております。

所有者別株式数構成比率



株主優待

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主の皆様へ、自社関連商品などをお送りしています。

本年は、平成23年3月31日を基準に、当社100%出資の通販子会社「UMIウェルネス株式会社」の新商品「コラーゲンゼリー」1袋および地場産品セット(「鰹角煮」1袋、「鰹ふりかけ」1袋)を平成23年5月にお送りしました。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
株主確定基準日	(1) 定時株主総会議決権行使株主 3月31日 (2) 期末配当金受領株主 3月31日 (3) 中間配当金受領株主 9月30日 (4) その他必要あるとき あらかじめ公告して定められた日
単元株式数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第1部
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 (〒168-0063)
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話番号(0120)78-2031[フリーダイヤル]
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞に掲載致します。

株式に関する各種手続きのお申し出先

- 証券会社経由で株式会社証券保管振替機構(ほふり)に株式がある場合
 - 株主様が口座を開設している証券会社
- 特別口座に株式がある場合
 - 中央三井信託銀行株式会社
お問い合わせは下記の証券代行部フリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。
フリーダイヤル
0120-87-2031(24時間受付:自動音声案内)
ホームページ
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しました。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、下記の電話照会先をお願い致します。お問い合わせ先 中央三井信託銀行株式会社 電話番号 (0120)78-2031(フリーダイヤル)

単元(100株)未満株式をお持ちの株主様へ

単元未満株式(100株未満の株式)をお持ちの株主様は、1単元に不足する数の株式を当社から買増し、単元株とすることができます。また、簡単なお手続きにより、ご所有の単元未満株式を時価にて当社にご売却いただくこともできます。いずれのお手続きも、ご希望の株主様は中央三井信託銀行株式会社(電話0120-78-2031)にお申し出ください。なお、証券会社経由で証券保管振替機構をご利用の株主様は、お取引の証券会社にお申し出ください。

買増・買取制度の例(460株ご所有の場合)

